

521) 痴漢心理

痴漢の心理というのは小生にはどうもよく分からないのだが、必ずしも色気むんむんの女性を狙うわけではないらしい。あるとき共働きで我が社に勤務している然る係長殿の奥様が痴漢にあったという噂が流れた。この奥様は美人には程遠い、どちらかという性格は男っぽくて、肝っ玉母さん系であった。これが地下鉄の車内で、痴漢に襲われたと言うのである。誰しもが耳を疑ったものだが、話の内容がかなりディテールに及んでおり、どうもガセではないらしいということになったのである。そのディテールというのはこうである。

この係長殿の奥方は、どうもお尻のあたりがやたらとくすぐったいので、手で振り払うと、それでもやたらとさわってくる様子だった。そこでひょいと振り向くと、何と同じ会社の社員バッジを着けていることに気づいたと言うのである。ここからが肝っ玉母さんの真骨頂であるのだが、これは面白いとばかりに、この肝っ玉母さんは、やおらハンドバッグの中から社員手帳を出して、そいつの目の前に突き出したと言うのである。するとその男はこれはヤバイとばかりに「スンませんでした！どうかお許してください。」と言って一目散に退散したのだと言う。しかし外野どもは「それにしても馬鹿な男よ、痴漢をするんだったら、バッジぐらい外してからにしろよ。それに同じ社員だってもっといい女がたくさんいるだろうに！」と。いやはや痴漢をする方も、される方もクワバラ！クワバラ！なのであります。